外来診療における医師のコミュニケーション・スタイルに関する質的研究

指導教員　赤林　朗　教授

東京大学大学院医学系研究科

平成16年4月進学

博士後期課程

健康科学・看護学専攻

Brian Taylor Slingsby

『背景』医療従事者がどのように患者とコミュニケーションをとるかは、文化、言語、制度といった要因に影響される。臨床医学上、医療従事者が患者とどう接するかは、非常に重要な問題である。医師のコミュニケーション・スタイルに関するモデルは、これまでもいくつか提示されてきたが、それらはすべてアメリカにおける研究に基づいており、日本の医療現場にどれほど適応できるかは明らかでない現状にある。

『目的』本研究は、外来診療において、日本の医師がどのようなコミュニケーション・スタイルを取っているのか検討することを目的とした。ここでいうコミュニケーションとは、言語および非言語のコミュニケーションを意味し、話し方のみならず接し方も含まれる。外来診療における医師のコミュニケーション・スタイルの定義は、①患者を理解するためのデータ収集、 ②患者との信頼関係の形成、③患者への情報提供の三点によって構成される。

『方法』本調査は、質的研究である。データの収集方法については、①京都にある総合病院の外来診療部門での観察データ、②外来診療で癌以外の疾患の患者を担当する内科医を対象とした半構造的面接、③その内科医と共に看護師を対象とした半構造的面接、④外来診療を受療している癌以外の疾患の患者を対象とした半構造的面接、という４つの方法にて収集。

データの分析方法については、観察法、およびインタビュー法により収集したデータを継続的比較分析法にて分析。全てのデータ収集・分析は理論的飽和状態に達するまで続けられた。以上、調査研究の結果の信憑性は、データおよび方法トライアンギュレーション（それぞれのテーマは、医師・看護師・患者の参加者のカテゴリー間で、解答および直接観察のデータとの照合・確認）と、参加者へのメンバーチェックインタビュー（それぞれの参加者とのインタビューの結果についての話し合い）により確保した。

『結果』医師 18 人、看護師 14 人、患者 17 人にインタビューした時点で理論的飽和に達した。医師のコミュニケーション・スタイルは、医師がどのように患者と接して話すか、また、どのように看護師と接して話すか、の二点から構成されていた。この二種類のコミュニケーション・スタイルから、外来診療において、医師がどのように患者や看護師に接して話すかに関する四種の類型が明らかとなった。即ち、患者や看護師との医師の交流の仕方に関する二種類には、①協力的適応型、②協力的一定型、③単独的適応型、④単独的一定型の四種の類型が見られ、患者や看護師との典型的な医師の交流のあり方が示唆された。

『考察』本調査結果と先行研究で提唱されたモデルとの間には、いくつかの差異が存在する。最も重要な差異は、これまでのモデルが、医師のコミュニケーションの方法は医師と患者との交流にのみ依存するもの、と仮定していたことにある。今回の調査は、診察室に看護師が居合わせることが通常の外来医療部門で実施され、患者のデータ収集、信頼関係の形成、情報提供といったコミュニケーションにおいて、医師が看護師に頼っていることが認められた。この違いは、これまでの外来診療における医師のコミュニケーション・スタイルのモデルでは説明されていず、有効で注目すべきものである。従って、いわゆるチーム医療で機能するコミュニケーションを説明するモデルの構築も必要される。今回の調査結果は、外来診療におけるコミュニケーションの Multi-provider Patient Model の必要性を示唆している。